

日本ビジネス実務学会

JSABS

Japan Society of Applied Business Studies

第 47 回 関東・東北ブロック研究会会報

<http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

2021 [令和 3] 年 2 月 13 日 (土), オンラインにて第 47 回関東・東北ブロック研究会が開催された。基調講演, 研究助成報告, 研究発表, 実践事例報告に続き, 総会が行われた。

全国大会の統一テーマ「ニューノーマル時代の新しい教育」に合わせ当ブロックは「ニューノーマル時代のビジネス実務教育」を研究会テーマとし, オンラインやリモートを軸と捉え, ポストコロナにおける教育方法や就職の変化と今後のビジネス実務教育や就職支援のあり方について, 基調講演と連動させる運営を通しオンラインにおいても活発な意見交換を行った。

ご挨拶

「未来にまかれた種」

関東・東北ブロック研究会リーダー

宮田 篤 (青森中央短期大学)

まずは他ブロックから 6 名を含む計 40 名の学会員の皆様からご参加を賜り, 無事に開会できたことに対して, ブロックを代表して心より感謝を申し上げます。

世界規模の感染症に翻弄された 1 年間でしたが, 同時にさまざまに「見えた」「気づいた」ことなどの発見がありました。遠隔会議, 情報・データのクラウド化など, 以前から時間や財政の効率を図るためにあつたらいいなと誰もが思っていたにもかかわらず先送りしてきたことが, 緊急事態下において実現したのです。

私たちブロックの運営組織も, 危機に瀕して体制の転換を行い, そのことが結果的に持続可能な組織・運営について考え直す契機となりました。コロナ禍での危機からの脱出・収束は, 元に戻るのではなく新たなフェーズに移行することを私たちにもたらしました。

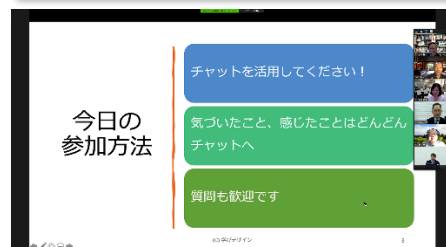
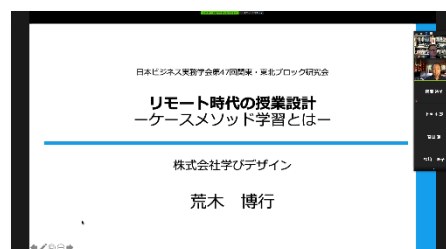
今回の研究会での参加体験が, イベントとして終わることなく, 実務界からの刺激や影響を受けつつ, 参加者一人ひとりが自分自身の日々の高等教育の視点・立場でどのように活かすことができるのかについて, 互いにブラッシュアップできる場となることを願っております。

基調講演

リモート時代の授業設計

株式会社 学びデザイン

荒木 博行 氏



講師の荒木氏から講演の冒頭, 参加者らに対し Zoom のチャット活用, オーディオ(音声)使用, ビデオ(顔出し)使用を促されることから講演が始まりました。

全国大会などでみられる従来の参加方法とは真逆のスタートに私たち参加者は戸惑いながらも, まずはケーススタディ(学ぶべき内容・結果が既にある)とケースメソッド(与えられた状況で経営者・当事者になりきって意思決定を行う・結論・結果は想定できない)との違いを確認しました。

意思決定をすることでクラスが変わったとい

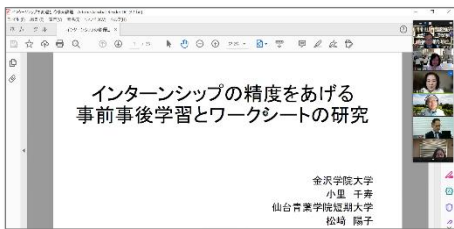
う実感を持つことができる授業の運営自体を、私たち自身がリフレクションする、その過程が講演とチャットの同時進行の中で実践されたライブ感の心地よさに思わず前のめりに引き込まれた60分間でした。

研究助成報告

インターンシップの精度を上げる事前事後授業とワークシートの研究

小里 千寿 (金沢学院大学)

松崎 陽子 (仙台青葉学院短期大学)



本研究は、日本ビジネス実務学会の2018年度研究助成金を受け研究を行った成果についての報告である。

<研究の目的>

学生の成長の機会よりも就活の第一歩としての色彩が濃くなったインターンシップについての現状認識と共に、教員として行うべき具体的な方策を見出す。

<研究の方法>

- 1) 石川県「ジョブカフェ石川」、長岡大学、金沢学院大学のヒアリング
- 2) 事前授業と事後授業のプランニング
- 3) オリジナル・ワークシートの考案

<研究成果>

1. 企業の意識啓発、大学との意識のすり合わせの必要性。
2. 事前授業で、「インターンシップ」の目的を考察させる必要性。
3. 事後授業で、将来に繋がる振り返りをさせる必要性。
4. 授業に活用できるオリジナル・ワークシートを考案。

<今後の課題>

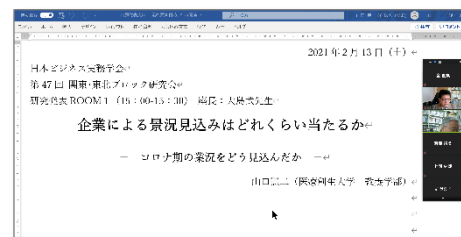
- ・大学の規模によって、インターンシップ先企業へのきめ細かい対応が難しい。
- ・学生の自己評価と企業の評価の整合性をどう図るか。
- ・総合的な評価の中立性をどう保つか。

個人研究発表

企業による状況見込みはどれくらい当たるか

山口 憲二 (医療創生大学)

研究対象領域【2】の1)



日銀短観や中小企業景況調査などの業況判断DIについて、2016年から2020年までの5年20期のデータ15系列を、その誤差 = (t期の業況判断DI) - (t-1期における「来期見通しの業況判断DI」) に注目して分析した。

得られた知見は以下の通り。

1. トータルで誤差が少なかったのは日銀短観大企業。ただし、誤差の絶対値について調査間、系列間の差は統計的には認められない。
2. 日銀短観の非製造業は慎重な見通しをする傾向(有意差有り)。
3. 中小企業景況調査は一貫して強気見通しだったが、2020年下期で初の慎重見通し。
4. 2020年上期はどれもコロナ禍の業況落ち込みを過少に見通していた。
5. 2020年下期の業況上向き期の見通し誤差が少なかったのも日銀短観大企業。
6. 2020年のコロナ禍発生期のような大変動期には、時系列予測手法よりも主観的な業況見通しの精度が上回った。

実践事例報告

【報告①】

大学と地方の新しいカタチ

～「聖地巡礼インターン」という試み～

安齋 徹（清泉女子大学）

研究対象領域【1】の2)

2019年に「飛騨市聖地巡礼インターン」を実施した。これは、共に映画『気の名は。』の舞台となった東京都新宿区の目白大学の学生が、岐阜県飛騨市を訪れ、4泊5日で古民家に寝泊まりしながら地域の課題解決に取り組むインターンであった。

学生は「映画のイメージ以外の場所で聖地巡礼者が必ず写真を撮りたくなるバズるフォトスポット作り」というテーマに取り組んだ。最終日の「成果発表会」で飛騨市役所や飛騨市観光協会向けに考案したフォトスポットを発表し、若者の感性あふれるユニークな提案は好評を博した。

学生の満足度も高く、タフネス・コミュニケーション・チームワーク・ソリューションというスキルが伸長した。受け入れ先にとって、学生の新鮮な発想力は魅力的で、実際の業務に活かせる提案もあった。「飛騨市聖地巡礼インターン」は、地方にとっては「地域の課題解決」、大学にとっては「学生の成長」という Win-Win モデルを体現するものであった。

【報告②】

ポストコロナ時代における産業構造の変化とそれに伴う就活指導方法の変化

金 世煥（医療創生大学）

研究対象領域【1】の3)

新型コロナの流行により、生活者の意識や生活パターンが大きく変化しており、就職先としての産業構造(売上変化, オンライン中心など)も変わっていく。それでポストコロナ時代における産業構造の変化を検討しながら、それに伴う大学での就活指導方法の方向性を探ってみた。最新の文献調査を通じてコロナ禍によるキャリア・就業意識の

変化や職務環境の変化(テレワーク導入),そして業界別の動向(業績, 雇用率, 年収の減少など)を語りながら,テレワーク時代での生産性を高める要素(結果重視の風土, 働き方のフレキシビリティ, 変化受容マインドなど)を説明した。今後,業務ごとに最適な人材を起用する「ジョブ型」が日本社会に浸透すると予測されるため,「就職」ではなく,「転職」を想定した就職先を探す必要がある,スマートキャンパスでの就活指導も時代の変化に合わせて,柔軟な学習オプションや専門教育(即戦力),関連資格,外国語能力,GPAなど具体的な能力が図れるバロメーター(職務スキル)が求められるため,就活指導方法も変わっていく必要があると提言した。

【報告③】

キャリアデザインにおける地元企業へのインタビューの取り組みについて

堀 良平（聖和学園短期大学）

研究対象領域【1】の1)

報告者が在籍する聖和学園短期大学キャリア開発総合学科で,2005年の設立当初から行われてきたキャリア教育についてその経緯を振り返りながら,2013年から始まった全学生参加による地域の企業インタビューを行うグループワークについて考察した。全学生参加型ということもあり,開始当初は課題が山積したが,年度ごとに修正していく中で,2018年度からは仙台市産業振興事業団と協定を締結し,導入のガイダンスから企業選定までを依頼し,学生も積極的に取り組むようになった。

発表では2018年度以降から行っている企業編成,クラス編成,授業の展開の観点から具体的な事例を紹介するとともに,2020年度のコロナ禍においてグループワークや企業訪問をどのように進めたのかも報告を行った。フリーライダーを始めとした学生同士の取り組みの格差や授業を越えた進路決定へのつながりなど課題も多いが,地元志向が強い学生が多い本学において,視野を広げるきっかけ作りになるとともに,企業も

学生との接点を持てる貴重な機会となっている
と考える。

研究会を終えて

第 47 回関東・東北ブロック研究会
実行委員長 齋藤 裕美 (多摩大学)

おかげ様をもちましてオンラインでの開催に
もかかわらず 40 余名の会員他のご参加を得ま
して無事に終了いたしました。これもひとえに
皆様方のお力添えの賜と感謝を申し上げます。

この度の研究会では「ニューノーマル時代の
ビジネス実務教育」をテーマに、基調講演や助
成研究報告、研究発表、実践事例報告がなされ
ました。基調講演ではケースメソッドについて
非常に分かりやすく、事例もご紹介いただきな
がら、またオンライン授業のメリットや運営方
法についてもお話しいただきました。研究助成
報告ではインターンシップの事前事後指導やワ
ークシート的设计など、これから就職活動が一
層厳しくなっていく局面において、その準備段
階であるインターンシップのあり方についてご
報告いただきました。助成研究については本研
究会でご報告いただいた研究が、関東・東北ブ
ロックとしての助成研究の最後の研究というこ
とになります。また、研究発表、実践事例報告
についても数年ぶりに複数の発表会場を設ける
ことができ、それぞれのご発表で活発な質疑応
答や意見交換がなされました。

第 47 回研究会は本来、昨年 2 月に開催され
る予定でした。しかしながら新型コロナウイル
ス感染症の拡大によって研究会の 3 日前に中止
せざるを得なくなりました。今年、オンライン

での開催ではありましたが、こうして無事に研
究会を開催でき、幻となった昨年の研究会でも
実行委員長であった私としても安堵しておりま
す。この研究会の成功は、研究発表された会員
の皆様、基調講演講師をお引き受けいただいた
荒木博行氏、さらに準備段階から当日の運営ま
で大変なご尽力をいただきましたブロックリー
ダーの宮田篤先生を始め、運営委員の方々、質
疑応答での討議に加わられた参加者の皆様のお
かげと感謝いたしております。

ブロック研究会としては初めてのオンライン
開催であり、皆様の通信環境などへの配慮も含
めて十分行き届かなかった点多々あり、参加
者の皆様にはご不便をおかけしたのではないかと
心配いたしております。この点どうかご容赦
ください。しかし、オンライン開催ゆえの利点
もありました。参加された会員の方から参加し
やすかったとのご意見もいただいております
し、総会についても帰宅時間等を気にする必要
がなかったためか、多くのご出席をいただきま
した。日頃、ご多忙のためにご参加いただけな
かった方にもご出席の機会が広がったのではな
いかと考えております。

来年 2 月に開催される第 48 回関東・東北ブ
ロック研究会はこれまで通りの開催になるの
か、それとも今年度と同様オンラインでの開催
になるのか、まだ分かりませんが、ニューノー
マル時代にあっても変わらず、会員皆様のビジ
ネス実務研究・実践への熱き思いに触れること
のできるブロック研究会となることを祈念し、
第 47 回日本ビジネス実務学会関東・東北ブ
ロック研究会終了の報告とさせていただきます。
誠にありがとうございました。

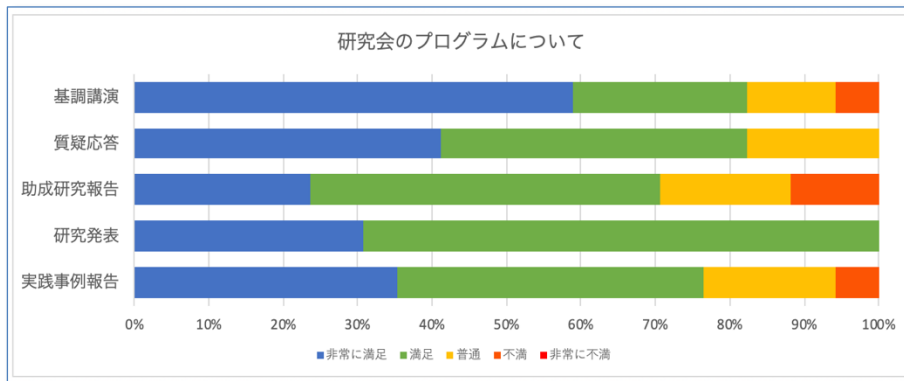
編集後記

☆初のオンライン開催でしたが、皆様のご協力の元大きなトラブルもなく無事に終了することができました。
ブロック研究会にご参加くださった皆様、本当にありがとうございました (編集担当 周藤 亜矢子)

第47回実行委員長：齋藤 裕美 副実行委員長：宮田 篤
運営委員：大島 武, 大塚 映, 上岡 史郎, 金 世煥, 小松 由美, 周藤 亜矢子, 齋藤 裕美, 関 憲治,
坪井 明彦, 宮田 篤(50音順・順不同)

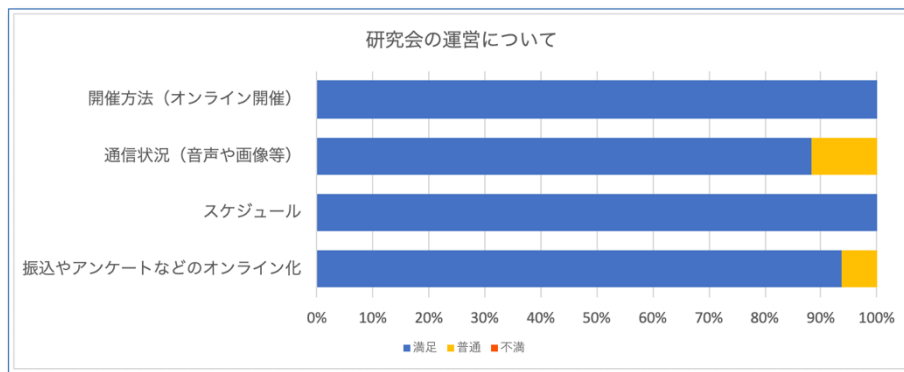
第 47 回日本ビジネス実務学会関東・東北ブロック研究会 アンケート結果

1. 研究会のプログラムについて



- ・ 基調講演（質疑応答含む）は「非常に満足」「満足」があわせて 80%以上あり、満足度の高い結果となった。
- ・ 研究発表は「非常に満足」は基調講演に比べて少ないものの「満足」とあわせると 100%であり、普通以下の回答は皆無であった。
- ・ 助成研究報告は 70%以上が「満足」以上の回答であるものの、「普通」「不満」の総数が最も多い結果となった。

2. 研究会の運営について



- ・ オンライン開催は「満足」が 100%となった。
しかし、アンケートのオンライン化に関しては「普通」との回答があり、自由記述でも「バーコードが苦手」「どの URL にアクセスすればよいかわからない」との意見（同一人物）があったため、アンケートについては、対面開催・オンライン開催の別なく研究会終了後に案内メールを送付すること及びその旨の事前周知を行うことが必要なのではないかと思われる。
- ・ 通信状況は、「不満」との回答はないものの必ずしも快適であったとは言えないように思われる。基調講演においてカメラオンを求められたことから通信量が増加した可能性も考えられる。今後、オンライン開催する場合には、送信側にはスライド資料作成時の留意点を示す、受信側にはビデオのウィンドウの大きさによって受信量をコントロールできることを案内するなどの案内をすることなども検討する必要があると思われる。

3. 自由記述

- ・ オンラインでありながらとてもスムーズに進められたと思います。
- ・ 事前のご連絡が早目だったので安心して参加できました。
- ・ アンケートがバーコードで苦手でしたが、どの URL にアクセスすれば良いのかわからなくて、総会の前の休憩時間に画面表示していただけたらよかったですと思います。どなたかチャットに入れてくださいとありましたね。
- ・ 先進的なインターンシップ（課題解決型を含む）に関する具体的な取り組みをご説明いただき、大変勉強になりました。
- ・ 運営の皆様ありがとうございました。有意義な時間を過ごすことができました。